

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490800081	事業の開始年月日	平成22年8月1日	
		指定年月日	平成22年8月1日	
法人名	特定非営利活動法人 南の風			
事業所名	白山のつどい			
所在地	(〒236-0045)			
	神奈川県横浜市金沢区釜利谷南2-4-22			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	25 名	
		通い定員	15 名	
		宿泊定員	6 名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成27年2月23日	評価結果 市町村受理日	平成27年4月15日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は利用者を人生の大先輩であると考え、尊敬の念をもって接することを心がけており、毎日を笑顔で暮らせるように介護にあたっている。栄養士による毎日の献立は畑で採れた旬の素材を使い季節感のある料理を提供している。小規模多機能型居宅介護の特性を生かし、一人ひとりに合った介護計画をたてて、居宅、通所、宿泊、訪問のサービスを提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成27年3月17日	評価機関 評価決定日	平成27年4月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇小規模多機能型サービスの「通い」「訪問」「泊り」を、利用者個々の要望に応じ行き届いた手厚いケアを行っており、家族の負担も軽減されて、利用者・家族の双方と良好な関係が保たれている。
また、独居の利用者にも、家庭での生活が継続できるように改善策や対応策を提案して実施している。
◇栄養士が作成した野菜中心で魚と肉のバランスのとれた献立を基に、職員が買い物、調理を行い、旬の食材を使い彩り良く盛り付けて、利用者と職員が会話をしながら食事をしている。

【事業所が工夫している点】

◇レクリエーションは、利用者のリクエストに応じて一人一人のできることの継続を目標に、手工芸やおやつ作りのほか季節の飾りや貼り絵を作りリビングに飾っている。なお、おやつ作りでは、お団子やおはぎを利用者と一緒を作って、日常生活に楽しみが増やすよう支援している。
◇浴室は床からの冷えを避けるようコルク材を敷き、重度の利用者にも対応可能な機械浴と、2～3人で入れる大きな檜風呂が設置されている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	小規模多機能型居宅介護 白山のつどい
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域でその人らしい生活がつづけられるよう努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・理念に「住み慣れた地域でその人らしい生活」を掲げ、その具現化に努めている。 ・職員は、利用者がいつも楽しく笑顔で過ごせるよう、居心地の良い場の提供に努め、利用者に尊敬の念を持って接している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中に畑を耕す近所の方に野菜を分けてもらったり、近くのスーパーへいっしょに買い物にでかけ、知人と会話を楽しんでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入して地域の情報を収集し、地域の一員として過ごせるように努めている。 ・法人代表や利用者の多くが地元で生活しており、散歩や買い物の折知人との会話が弾み、職員も事業所への来訪を呼びかけている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬老会のイベントに参加したり、町内のお祭りなど地域の人々との交流の機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	しばらく運営推進会議の開催が出来ておらず、横浜市からの指導もあり今年からは2カ月に一度開催し、参加者の意見をサービス向上に反映したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・会議には、町内会長や民生委員、地域ケアプラザ職員が参加して、2か月ごとに開催している。 ・会での助言を入れ、地域に事業所の存在や活動内容を伝えるため玄関先にボードを立て、レクの内容を記載し作品を飾ってPRしている。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席頂いている町内会長や民生委員とも連絡を取り合い、施設の理解を図っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市には活動報告書を提出し、合同連絡会に参加して情報を得ている。 ・地域ケアプラザのケアマネージャーに事業所の情報を伝え、サービスの相談がしやすい関係を築いている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	所内の研修会にて、どんな行為が身体拘束にあたるかを正しく理解し、拘束のないケアに努めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は所内研修で身体拘束の基礎知識学び、拘束のないケアに取り組んでいる。 ・職員は利用者が事業所内で自由に過ごせるよう配慮し、玄関も施錠せず拘束のないケアに努めている。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても研修会で理解を深め、肉体的虐待や精神的虐待もないように気を付け、自宅での虐待にも身体や行動にも注意して行く。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修会等の参加などで学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に所内の見学や十分な説明を行い、理解、納得して頂いた上で契約し、ケアを始めるように心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問や送迎の際、ご本人やご家族からの感想やご不満などをお聞きして直接、何でも話して頂けるような関係作りに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の要望や意見は、来訪時や送迎時に職員から話しかけて聞き、また、ケアマネージャーが家庭に訪問した折聞きだし、内容を検討して運営に反映している。 ・利用者からは、日常の会話の中で意向を聞きだしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日、朝、管理者代表者を中心に役割分担、前日の様子など職員の意見や提案を日頃聞いて業務に反映している。	・ミーティングでは、職員が意見や提案を出しやすい雰囲気を作り、提案内容を業務に反映している。 ・職員からの提案で、利用者が笑顔で参加できるレクの進め方や利用者の気持ちの盛り上げ方法を検討し、実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の個性、能力、得意なことなどを発揮し、意欲的に業務に望めるように配慮している。職員間で気づいたことや協力し合えることなどを、お互いに話せるような機会を作っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事務所内の研修を行っている。外部研修は認知症実践者研修や認知症計画作成者研修、介護保険法研修、取得し働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市、神奈川県の小規模多機能事業所連絡会に参加し、学習や情報交換をしている。又、同業者の方に運営推進会議に出席してもらい、意見交換をしながらお互いのサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お試し利用や契約時のご家族の情報でご本人の不安や心配を取り除き、寄り添う介護で信頼関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	はじめにご家族が困っていることや悩みを伺い、これからどうして行きたいか、どのような介護を望まれているかをよく聞く機会を作り支援をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、どのような支援が必要かを見極め、必要があれば他のサービスも利用し、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とレクリエーションや食事を共にすることで、支えあう関係を築いている。利用者から教えを乞うこともある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の悩みや不安を共有し、一緒に利用者を支えて行く関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	レクリエーションで行っている絵手紙を出したり、近くであれば散歩の時に訪れる支援をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の利用者が多く、利用者との日常会話の中からこれまで大切にしてきた人や場所を把握して、関係の継続を支援している。 ・独居の利用者には、馴染みの店への買い物に同行することもある。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の性格や体調を配慮し、孤立や不快なことがないような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方や退所した人に面会に行ったり、家族とも連絡を取っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン第1表で本人の希望をお聞きし、作成している。大きな変化は、望めなくても長期目標と捉えている。	・利用開始時に利用者から思いや意向を聞いているほか、日常の会話の中から聞き取るように努めている。上手く聞き出せないない場合には、家族の協力を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人がいらっしゃらない時に自宅を訪問することで、ご家族から率直なお話を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフやご家族から日頃の様子などの情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の様子や問題点をスタッフにきいたり、ご家族には困っている事などを伺っている。	・介護計画は利用者や家族の要望、職員の意見を反映してケアマネジャーが作成している。 ・作成した計画は、利用者の日常の変化や状況に応じて、ケアマネジャーと相談して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録を作成し、ミーティング時に意見交換を行い情報の共有化に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の通院の付添い、夫の入所している施設の面会など、ご希望に添えるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節で、お花見や行楽地に出かけ車でレストランにも出掛け、楽しいひとときを過ごせるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携しているかかりつけ医があるが、利用者のかかりつけ医に家族同行で受診されている。独居の人はスタッフが付添いをしている。	・利用者の従来のかかりつけ医での受診を、家族同行で支援している。独居の利用者には、職員が付き添っている。 ・状況によっては、事業所の協力医で対応できる体制ができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回パートの看護師にきてもらっている。日常の健康状態を伝え、適切な健康管理を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の様子を伺い、退院ごの注意事項などを病院関係者にアドバイスを受け、情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と、どのようにしたらよいか、何を望まれているか、十分に話し合い施設の出来ることを理解して頂き、支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・家族には入居時、予め重度化した場合対応できる範囲を説明して了解を得ている。 ・実際に利用者が重度化した場合は、他の施設を紹介している。 	今後の高齢化の進展に伴い、ターミナルケアへの要望がますます増えることが予想されるため、中長期的な観点から事業所としての対応を検討されることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時は落ち着いて、日々の訓練や研修通りに行動し、冷静に対応していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災は年1～2回の避難訓練を行っている、夜間の訓練も実施していきたい。自然災害にも早めの対処を心掛けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年に1～2回、昼間の火災訓練を行っている。町内会の避難訓練にも参加するよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練の内、1回は夜間を想定した訓練が望まれます。 ・災害にも対応できるよう、3日分の飲料水と食糧の備蓄が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人格やプライドを傷つけるような言動や対応に心がけている。	・手順書「観察のポイント」には、利用者の心情を受け止める感性とその人らしい環境作りを挙げて、職員は利用者への言葉かけや傾聴に配慮することに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいのか時間かけ、じっくりと伺い思いや希望が出来る限り叶うよう寄り添う支援をしてゆく。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の性格やペースを大切にし、施設の都合を優先するのではなく、可能な限り希望に添える支援を心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の汚れやにおいに気を配り、似合いの着こなしの時には褒めたり声掛けをしておしゃれを楽しめる支援をしている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューづくりも利用者の希望を取り入れ、スタッフと一緒に食事を楽しみ、時々、車でレストランや寿司屋さんの外食をして、喜んで貰っている。	・栄養士が作成する和食中心のメニューには、利用者の希望を取り入れ、人気の鶏の唐揚げと生野菜、フルーツを取り入れるなど、食事を楽しめるよう工夫している。 ・おやつやお彼岸のおはぎ類は、利用者と一緒に作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によりバランスよく、野菜を多く取り入れた食事を心掛けている。水分については、一日数回に分けて摂取をしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをほぼ自分で頂き、必要な時には介助をしている。入れ歯や歯茎の状態にも気を付けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人のプライバシーを尊重し、必要と思われる時に支援を行っている。	・車椅子の利用者以外は自立しており、一人一人のタイミングをみてさりげなく言葉を掛けて、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排便や排尿のチェックを行い、水分やヨーグルトの摂取を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その人の体調やバイタルチェックを行い、入浴時間や温度を考え入浴を楽しんでもらっている。入浴拒否がある場合は、声掛けでなるべく入浴して頂く。	・週3回、月水金の午前を入浴時間としており、個別に好みの時間帯や熱さを加減して対応している。 ・浴室は広く、介助できるスペースを十分備えている。 職員は、利用者がゆったりと安心して入浴できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活習慣を変えることなく、ゆっくり、安心して眠ってもらえるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の効能や服薬方法を正しく理解し、薬の飲み忘れや誤飲がないよう注意を配り、服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションでの製作のよこびや歌を歌ったり戸外の散歩などで気分転換を計っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、自宅より通所の利用者が多いため、一人ひとりの外出はほとんどないに等しい。家族の要望で病院や目的地まで送ることがある。	・天気の良い日は農道を散歩して四季を楽しみ、ベンチでおしゃべりしたり日向ぼっこを日課としている。 ・利用者の希望を聞いて、送迎の途中に銀行やスーパーに立寄ることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	あまりお金を使うことはないが、買いたい物がある時にはスーパーや目的の店までの外出支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は、絵手紙を家族や知人にだしている。電話については、自分が電話を掛けたい時や不穏の時に電話をし、安心してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、共用部分の掃除を行い、清潔を保ち、空調や換気にも気を付け気持ちよく過ごせるように工夫している。	<ul style="list-style-type: none"> ・共用空間は、空調換気で不快な臭いもなく、清潔が保たれている。 ・南東向きの明るいリビングでは、利用者はおしゃべりに興じ、TVのニュースを見ており、寛いで過ごせる空間が整っている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者が、フローアーツファーにて楽しい時間が持てるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの居室は、できるかぎり同じ部屋を利用させていただき、環境の変化をできるだけなくし、居心地よく過ごしていただいている。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室は、利用者の好みに応じて和室と洋室を選ぶことができる。 ・部屋の入り口には、花模様入りの表札を掛けて、部屋の識別ができるように工夫している。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーのフローアールではあるがより一層の安全に気を配り、出来るかぎり、自立した行動が取れるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 小規模多機能型居宅介護
白山のつどい

作成日 平成27年2月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	現在は利用者が少ない為、服薬の管理がきちんと出来ているが利用者の数が増えるとスタッフ全員が共有できる管理が必要。	利用者、スタッフのシフトが変わっても服薬の管理がきちんと出来ている。	服薬ホルダーを利用し、利用者名、服薬時間を一人ではなく複数のスタッフで管理する。	早急に
2	23	ご本人にお話しを伺っても具体的に言葉が返ってこないこともあるのでご家族とも協力していただいている。意欲が弱まっているのが課題。	本当は何を望んでおられるか理解できないこともあるので、信頼関係を築いて心を開いてお話して頂くようになる。	日頃の顔の表情や会話に耳を傾けることで、どのような考えをお持ちなのか察知していきたい。	信頼関係は日々の積み重ねでありゴールがあるわけではない。
3	36	一人ひとりの性格や生活歴が違って現在に至っておられるので、プライドを傷つけないような言葉掛けが課題。	日頃接したり、お話する中でどのような価値感や考え方を持たれているかを把握し、傷つけることがないようにしたい。	言葉掛けを十分注意し相手の話を受容しつつ、スタッフの話も聞いて頂けるような関係を築いていきたい。	期限はない
4	33	現在は重度の利用者はいないが、今後小規模多機能に求められているのは、在宅医療を含めた介護になっていくと思う。	病院や他の介護事業所からの問い合わせがあった場合に対処できる所内の体制を整えて行く。	研修や勉強会を利用し、スタッフのレベルアップを図って行く。	早急に
5	10	事業所内に「ご意見箱」を設け、自由に意見を述べて頂けるようにしたい。	運営に関する利用者、家族等の意見、不満などを聞き運営に反映させたい。	訪問、送迎の際にもご本人やご家族から要望や、不満を聞き、何でも話して下さるような関係作りをする。	早急に

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。